



# 水 稲 管 理 情 報

令和 8 年 3 月  
J A 志 賀  
能登南部営農推進協議会

## 育 苗 編

### 「5つの1か月対策」 育苗日数は1か月以内！

- ・昔から「苗半作」といわれるように、苗づくりの善し悪しはその年の収量や品質に影響します。
- ・良い苗とは「がっちりした太い苗」です。決して「長い苗」ではありません。
- ・苗の生育段階によって、管理が異なります。良い苗を作るためにも、生長に合わせて適切な管理をしていきましょう！

## 1 育苗ハウスの準備及び苗箱並べ

〔苗箱の並べ方1つで苗の揃いかわる〕

### ● 予めハウス内の地面はならしておきましょう。

→ ハウス内の地面に傾きや凸凹があると、生育に影響し苗が不揃いになります。

### ● 原則、地面にシートは敷かないでください。

→ シートを引くと、苗箱からの排水が妨げられ病害が発生しやすくなります。

### ● 温暖な日中(できれば風の無い午前中)に苗箱をハウス内に隙間なく並べましょう。

→ ハウスのヘリ(外縁)は低温や水滴がたまりやすく、苗が不揃いになるので、ヘリから10cm程度あけて置きましょう。

### ● ハウスに並べた当日は原則、かん水しないでください。

→ この時期の水分過剰は出芽ムラや発根不良のほか、病害の原因となります。過度に乾燥している場合のみ軽くかん水する程度としてください。

### ● 被覆資材(シルバーポルトウ等)で覆い遮光し、資材の特徴に応じて管理してください。

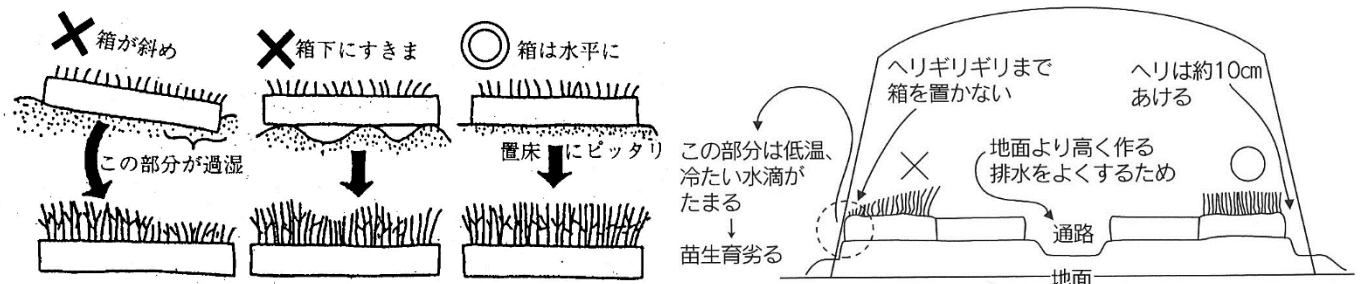


図1 苗箱の並べ方のポイント

## 2 育苗期間の病害対策

〔ハウス内の温度管理でムレ苗の防止〕

- ・例年、ハウス内の温度管理の失敗により、ムレ苗の発生が多くみられます。
- ・急激な温度変化が起きないように、換気や温度管理に努めましょう。
- ① 高温時には換気し、高温(25℃以上)・多湿条件にならないようにしてください。
- ② 緑化期以降は、急激な温度変化や多湿条件でムレ苗が発生しやすくなるので、日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう換気や保温に努めましょう。


表1 病害の原因と対策

病原菌(症状)	原因および対策	適用薬剤・使用量	使用時期・回数
リゾープス菌 (白カビ)	・出芽期の高温や緑化期以降の低温、過湿条件で発生 → 換気を十分に行い、土の表面が乾き始めるまで灌水しない	ダコニール 1000 (1成分) 500倍液を500mL/箱かん注	は種時～緑化期(は種後14日以内) 使用回数2回まで(いずれかの薬剤をは種時に使用していれば、育苗時は残り1回使用可)
トリコデルマ菌 (青カビ)	・育苗機器の汚染によって発生 → 播種前に育苗機器を洗浄・消毒	ダコレート水和剤 (2成分) 500倍液を500mL/箱かん注	
フザリウム菌 (赤カビ)	・緑化期間中の異常な低温条件で発生しやすい → 保温・加温	タチガレエースM液剤 (2成分、) 500倍液を500mL/箱かん注	は種時又は発芽後 使用回数1回まで
ピシウム菌 (ムレ苗)	・緑化期以降の急激な温度変化や日照不良によって発生 → 薬剤を散布後、寒冷紗等で遮光し、蒸散を制限すると効果的		

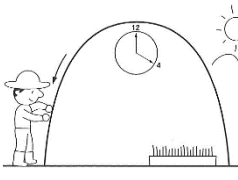
### 3 育苗管理について〔苗の生育に合わせた管理の徹底〕

#### ◆育苗初期(緑化期:3~4日間)【かん水を極力控える、できればやらない】


- ・第1葉の先端が見えて、葉が緑色となり、苗の高さが3cm程度となった時点を緑化とし、確認したら直ちに被覆資材を取り外してください。
- ・被覆資材のしわやヨレ、資材上部の水たまりは、高温障害(葉焼け)の原因となるので注意しましょう。

育苗初期(緑化期) (苗箱並べから3~4日間)	温度管理 (温度計は苗の高さ)	水管理
<p>遮光のため、3~4日被覆</p>  <p>【朝7~8時】 土の乾燥を見て、必要なら少しかん水。</p>	<p>昼間: 20~25℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 晴れた日は喚気し、<u>高温(25℃以上)</u>にならないようする。</li> <li>→被覆資材が風でめくれないように注意。</li> </ul> <p>夜間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>15℃を下回るときは、十分に被覆し保温。</u></li> <li>→霜注意報が出たときはストーブ等で加温。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>かん水は極力控える。</u></li> <li>→床土が極端に乾かない限りかん水しない。</li> <li>→過湿状態が続くと苗箱の温度が上がらず生育が遅れ、カビの発生を招く。</li> <li>● 寒冷紗の上から水をやらない。</li> <li>● 覆土の持ち上がりがある場合は軽やかにかん水。</li> </ul>

#### ◆育苗中期(硬化前期:8~10日間)【温度・湿度管理で病害防止】

硬化前期 (被覆除去8~10日間)	温度管理	水管理
<p>こまめな喚気を!</p>  <p>【夕方15~16時】 ハウスを閉める</p>	<p>昼間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 晴れた日は朝から喚気。</li> <li>→<u>夜間の低温が予想されるときは、午後早めに閉める。</u></li> <li>● 喚気する場合は、<u>風が入らないよう風下側を開ける。</u></li> <li>→風に当たると葉がかすれ、生育に影響。</li> </ul> <p>夜間: 10~15℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>10℃以下に冷え込むときは被覆し、保温に努める。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● かん水は、床土の乾き具合を見て朝1回。</li> <li>● 夕方のかん水は控え、必要の場合は翌朝かん水する。</li> <li>● 雨や曇の日は、<u>かん水を控える。</u></li> </ul>

#### ◆育苗後期(硬化後期:田植前8~10日間)【外気に慣らして田植え準備】

硬化後期 (田植え前8~10日間)	温度管理	水管理
 <p>【朝7~8時】 晴れた日は、水やりと喚気</p>	<p>昼間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日中はハウスを喚気し外気にならす(順化)。温度が上がりすぎるときはハウスの腰部も開ける。</li> </ul> <p>夜間: 10~15℃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>田植え4~5日前からは夜間も喚気。</u></li> <li>→極端に冷え込む日は、保温に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>毎朝たっぷり1回かん水。</u></li> <li>→苗箱の周辺部は乾きやすいので十分にかん水する。</li> <li>● <u>2回目のかん水が必要な場合は、午後3時までにはすませる。</u></li> <li>→夕方以降では水が冷たくなり、苗の生育に影響。</li> </ul>

#### 労働者を雇用する全ての農業者に熱中症対策が義務化されています

令和7年6月1日から労働者を雇用する全ての事業者に、労働者への熱中症対策が義務化されました。労働者を雇用していない農業者は義務化されてはいませんが、家族やご自身を熱中症から守るため、こまめに水分をとる等熱中症対策に努めましょう。

#### 代かき後の濁水を河川へ流さないように努めましょう

代かき後の濁水の流出は下流域の濁りの原因となります。ほ場からは僅かな流出でも、それらが集まると大きな河川の濁りにつながります。流出防止のために、代かき作業は浅水で行い、田植前に濁水を流す「強制落水」は行わないでください。